

# 給食会たより

令和4年度第9号  
(公財)熊本市学校給食会  
R4.12.31 文責：本郷

## なす圃場視察

【左：ビニルハウスの中  
右：坂本さん】



11月に西区にある、なすの圃場視察を行い、JA熊本市茄子部会長の坂本さんにお話を聞かせていただきました。

- 茄子部会員数は170名で76haの圃場を有し、関東・関西・中京・北陸・熊本等へ出荷する。
- 茄子部会の98%が自分で開花して自分で実がなる（受粉しなくてよい）単位結果品種「PC筑陽」を栽培している。
- 8月上旬に定植する。生長点を止めて4本仕立てにする。主枝が倒れすぎると樹勢が弱くなるので、ひもで斜め上へ引っ張って固定する。樹勢が弱いと花がこないし実がつかないこともある。
- 側枝は一枝に一花になるよう摘花する。
- 暖かい時は実が急に大きくなる。春先からは肉太になる。
- 水は毎日午前7～8時、11～12時に10分前後マルチの下にある20cm間隔に穴を開けた管を使って灌水をする。
- ハウスの中は25℃に温度調整する。感温器を設置し、必要な時は自動でボイラーを焚いて熱風を出す。天候次第では換気のためにハウスを開け、ハウス内を乾燥させない、冷やさないようにする。
- エコファーマーで慣行栽培より農薬を減す。安全で環境にやさしい農業を目指している。
- タバコカスミカメという昆虫になすにつく害虫を捕食させる天敵栽培によって、農薬を使う回数を極端に減らしている。
- 9月から6月まで収穫する。一株から120～140本のなすが穫れる
- 実が張り品質が良い状態の朝に収穫し、午前中に選果場へ運ぶ。
- たいへんなことは、7月の暑い時期に定植準備のため、圃場に水を張り堆肥を入れて耕すこと。
- 困っていることは、ボイラーの燃料代、肥料代、ハウスやビニル等の資材価格が上がったこと。

なすの花

主枝を固定しているひも



【白いひもで上方へ引っ張られているなすの主枝】

坂本さんのお話の中に「樹勢」という言葉が何度も出てきました。なす自身が本来持っている生長する勢いをとても大切にされて生産されていることがうかがえました。